

蘇武岳登山（山行報告）

日 程：2018年3月27日（ワンデーハイク）

山 域：兵庫県日高町～村岡町にまたがる山域

参加者：I藤（I）、M本（M）、K岡（K） 報告者：K

1. コースタイム

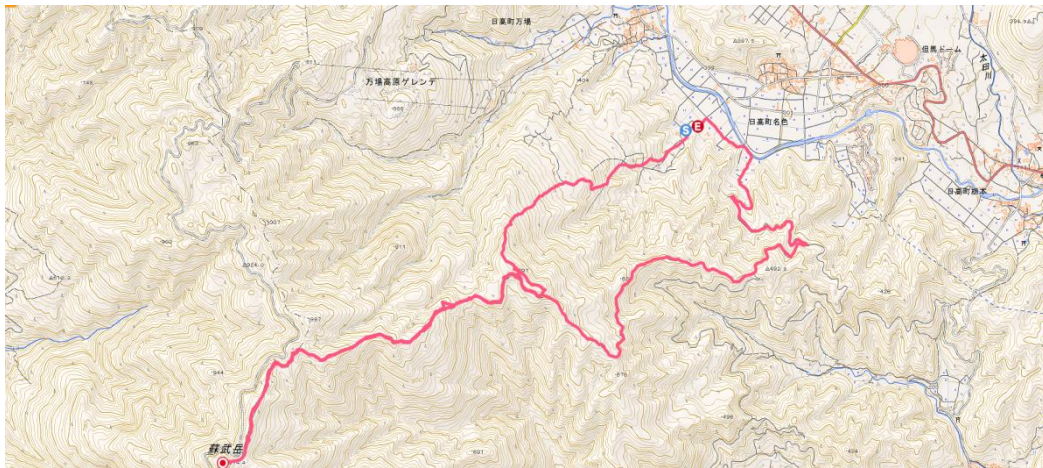
奈良発（5：45）～京奈和/新名神/中国/舞鶴～名色スキー場（登山口 9：40/10：00）～

備前山（11：20）～登山口（12：05）～蘇武岳（14：10/14：30）～下山（17：35）

行動時間：7時間30分、歩行距離：13.1km

累積標高：776m

2. コース概略図



3. 概 要：

ワンデーハイクにしてはやや遠路となる兵庫県の北の日高町にある蘇武岳へ。冒険家としてのリジェント・植村直己が初めて登った故郷の山としても有名である。

奈良を早朝に出発。途中、近鉄大久保駅でMをピックアップして最近開通の新名神など高速を利用しても4時間かかってしまった。

2010年の秋にKが一人で、西側の基幹林道の稜線の登山口から登っている。ルンルン気分の楽チンの山であったと山行報告にも書いている。今回もそのルンルン気分の残雪の早春ハイキングと決め込んでいた。登山口は東側の、神鍋名色スキー場から林道登山道を登る予定であった。しかし、広々としたスキー場ゲレンデを直登してルンルン気分で行こうと即決。初めは苔むすなだらかな勾配のゲレンデも徐々に勾配を増し、長い枯れた茅の草に踏ん張りが利かず、最後はシャーベット状の残雪が重なり悪戦苦闘して備前山にたどり着く。そこから、当初予定の林道の登山道に下り蘇武岳登山口から本格的な登山開始となる。標高800メートルぐらいの登山口あたりから所々地肌の登山道もあるが頂上までは深いところで膝下位の残雪が続く。稜線を大きく左側に巻くようにアップダウンを繰り返してブナ林の中を登っていく。気温が上がり雪の状態は良くないがワカンを着けなければならないような状態ではないが壺足登高は疲れる。このピークが頂上だと何回か騙されながら最後にたどりついた見晴ピークに出ると指呼の間に大きなピークの蘇武岳が現れた。それを目指して三人の足跡が頂上へと

向かっていく。



頂上は半分位残雪があるものの冬の雪に踏まれ根を張った絨毯のような芝生にあお向けに寝ころぶI氏。浅青色の広々とした空を見つめて感無量で気持ちよさそうだ。

ひらがなの「そぶがたけ」と書いた表柱とそのわきに一等三角点石、芝生中に立派な方位盤がある。ルンルン気分のハイキングが登り4時間もかかり、帰奈良するのに時間的にも余裕がないので食料や水分をとり早々に下山する。

下山ルートはグレンデを下降するのは登りと同じく疲れるので当初予定していた林道登山道を下山することとした。

しかし、この林道も倒木があり、また途中、大きな崩落などがあり、林業用の林道であるがとても利用できる状態ではないほど荒廃していた。



以 上